

9.1 基調講演 1

- 伊藤 滋氏（いとう しげる）早稲田大学教授 地域情報会議会長
- テーマ：「都市再生の最近の動向～21世紀型まちづくりの視点～」

1．基本的認識

- （１）すべての市民が安全で豊かな生活を営める都市環境づくり。
それは次の世代に受け継がれる質の高い社会資産を構築することである。
国際的に尊敬され高い評価を受ける都市空間を実現することである。
- （２）都市再生の行動によって、社会と経済の構造改革を実現する。
経済を活性化し金融システムを健全化する。
国民的貯蓄をすぐれた都市資産の構築に活用する。
行政の効率的向上により民間活動を拡大し、新しい都市的雇用を創造する。
国際的に開かれたビジネスと文化活動の場を提供する。
市民参加による多様な街づくり運動を展開する。

2．推進すべき場所と期間

3．具体的戦略の例

市民そして企業が地方公共団体と連携して元気に都市再生を実行できる戦略を構築する。

- （１）現在の社会経済情勢に対応するための緊急措置として、期間と場所を限って思い切った都市整備手法を適用する。
- （２）大都市において都市基盤と建築、両面の投資を一体で進める戦略プロジェクトを考える。
- （３）行政手続きの並行処理と改変を行い、その手続きの所要時間を大幅に短縮する(開発許可、環境アセスなど)。
- （４）土地の権利の整理に係わる、速度の速い住民合意システムと司法的手続きの迅速化。
- （５）まちづくり専門家を養成し、地域住民や NPO が協力する「草の根まちづくり」を拡大する。
- （６）テロ等・都市型犯罪を防止する、ソフト・ハード両面からセキュリティ強化。
- （７）地方自治体の広域連携による新しい都市マネジメント制度。